１．　環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼№	8	事例№	7	依頼者	日進市立東小学校	実施場所	日進市立東小学校 体育館
実施対象	小学６年生　３クラス　87 名						
実施日時	令和 7 年 11 月 19 日（水）13 時 40 分～15 時 15 分（2 時限分）						
テーマ	身近な生活で実践できるごみの減量						

●依頼内容

SDGs の活動の一環として、ごみの減量について身近な生活で実践できることを学ぶ環境学習の企画と講師の紹介。

●講師：岩月 輝希 氏（(一社）環境創造研究センター）

岩月輝希氏は、温泉や自然界の水循環、地下建造物の環境影響などを専門とし、大学生や一般の人向けにエネルギー問題や自然環境との関わりなどの講義やサイエンスカフェを行ってきた実績がある。

●授業の内容

座学	授業は、ごみ問題について、地球温暖化や食品の食べ残し問題の視点から行われた。はじめに、地球温暖化がどのような原因と仕組みで生じているのか、またそれによって将来私たちの暮らしや食べ物にどのような影響が生じるのかについて学んだ。つづいて、将来の暮らしを守るためには、省エネ等によって地球温暖化の原因である CO_2 をできるだけ出さない暮らし方をするとともに、地元産や旬の食べ物を選んだり、食べ残しや食品ロスを出さないようにしてごみの量を減らしたり、生ごみの水分をしっかりと絞ってから捨てるといった行動が大切であることを学んだ。	70 分（途中 5 分休憩挟む）
工作	生活のなかで手軽に実践できる、ごみを減らし、CO_2 を出さないようにするためのひとつの方法として、新聞紙を使った生ごみ入れ作りに取り組んだ。子どもたちは、講師の説明を聞いたり、配布されたパンフレットの作成手順を見たりしながら、新聞紙を折りたたんで自立するタテ型の袋を作成した。	20 分

●授業の様子

授業は、体育館で 3 クラス合同で行われた。子どもたちはメモをとりながら真剣に講師の話を聞いていた。講師からクイズや質問が出されると、たくさんの子どもが積極的に手をあげ、指名されると起立して元気に答えていた。工作では、友だち同士で教え合ったり、確認したりしながら新聞紙の生ごみ入れ作りに取り組んでいた。授業の最後には、子どもたちからたくさんの質問とともに、メモをとるためにもう一度スライドを見せてほしいという要望が出されたほか、休憩時間にも講師を取り囲んで質問をするなど積極的に学ぶ様子が見られた。

地球温暖化とごみの問題について学んだ。



新聞紙を使って生ごみ入れを作った。

